

なぜテレビの仕事を手を捨ててまで市政に挑戦するのか?

政治活動中は、芸人としてメディアに出演ができないという、メディア側の規制があります(特定の候補者を応援することになりかねないため)。正直に言って、心底悩みました。北日本放送「ワンエフ」キャスターをはじめ、富山、福島、東京でのレギュラー出演がなくなることは、自分のアイデンティティを失うようなもの。また、相方や事務所、家族の生活に変化は必至で、迷惑をかけてしまうのは明白でした。

しかし、この数年、仕事で富山県内各所にお邪魔し、高岡の状況について、「ダメだ」「どうにもならん」「変わらん」「良くならん」と、ネガティブな発言ばかりを耳にしています。私は約20年間お笑い芸人として活動し、笑うことと笑顔が、どれだけ人を幸せにするか、

マイナスをプラスに転じられるかを、目の当たりにしてきました。でも、芸人にできることは、その時に笑いを届けることだけ。もどかしいです。しかし——もしかしたら、既存の政治家にはないこの「笑い・笑顔」の切り口が、市民が関心を持ってくれる新しい政治家として、笑顔あふれる街づくりに貢献できるのではないかと気づきました。笑顔の街を実現できるだけのポテンシャルを、高岡市は持っています!人材も、環境も、歴史文化も豊かです。

過去の成功にとらわれず、この歳で一から新しい道を進むことは、とても険しい道のりですが、自分の経験を活かし、人のため地域のために生きたいと思い至りました。



漫才師と政治家、二足のわらじは本当に可能?!

地元の皆さんからも、どちらかという批判的に兼業に関するご質問、ご意見を頂戴します。まず、市議会議員には地方自治法により兼業が容認されていることをご理解ください。現実には、家業等を営みながら市議会議員としての職務を全うしていらっしゃる方は、高岡市にも大勢います。また、近年、地方議員のなり手が少なく問題になっていますが、法的に兼業が可能だとしても、議会、政治活動等に非常に多くの時間と労力を注ぐため、自営業者等でないと兼業しにくいという実態があります。定時就業のサラリー

マンや子育て中の方を含むより多くの方が政治参加できるように、私自身も漫才師という特殊な職業ではありますが、前例のひとつになりたいと考えています。多様性を認める時代の流れもあり、理解してくださる方が増えているのを実感します。

政治活動を始めたことで、上述の通りメディア出演も漫才の公演も激減したので、「二足のわらじ」と胸を張るにはまだほど遠いですが、試行錯誤しながら、自分の能力を最大限に発揮できる仕事の仕方が見つかるかと信じております。



今こそ一つになろう!—嶋川武秀の「高岡愛」

日本国内でも、世界に目を向けても、各地で「分断」という言葉がよく聞かれるようになりました。対立構造を作り、煽り立て、そこで戦いに勝ったとして、その後は一体どうなるのか。異見を受け入れ、交換し、皆でより上を目指すという発想になかなか見えないのが、人間の性かもしれません。

そんな世の中ですが、まずは私の地元高岡市で、皆が高岡を愛し誇りを持ち、一緒に未来に向かって進むという機運醸成に関われば、こんなに嬉しいことはありません。自分の住む町、自分のルーツを愛す、そこから全てが始まると考えます。



三遊亭円楽師匠より激励メッセージ公開!



嶋川君が母心というコンビで漫才をやっている事は、ご存知ですね?知らない方はググって見て下さい。良い漫才です。きちんとネタの出来る久しぶりの本格派です。

今どきのガチャガチャした連中とは違います!

その彼が地元、故郷に恩返しをしたいと言ってきました。なるほどと思いました。彼等は15年前に福島県に活動場所を移しました。まだまだ腕の無い漫才師が、少しでも出来る事が有るはず!と、東日本大震災の直後の、福島の人には笑いどころじゃない最中、被災者に寄り添う事から始めました!苦労した笑いは本物になりました。福島に、母心が定着して人気者になりました。その勢いで東京砂漠に笑いの水をまき、故郷でレギュラー番組も貰いました。

なるほどと今、彼等のやりたい事が、嶋川君がやりたい事が繋がりました!真っ直ぐで、いつも恩返しを考えている彼が富山で高岡で政治をやると決めました。故郷に錦では無く、故郷のドブさらいをしたい!故郷を元気にしたい。笑顔のある町を、人と人のつながりのある人間関係を、社会の再生をしたい。全国ツアーや、応援してくれてる人々に聞いた話、見てきた事が役に立つ筈です。芸人如きがと言う方に、芸人は政治より難しいと言いたい。嶋川君は人の心に響く政治が出来ると思います。何故なら彼には、母心があるからです。どうぞ、嶋川君を大勢の人に会わせてください。私よりずっと真面目な男です!



六代目
三遊亭
円楽